

飛鳥資料館のみどころ (16)

復原山田寺東回廊

飛鳥資料館の第2展示室には、山田寺の復原された東回廊が展示されています。この回廊のみどころは、何といてもレプリカではなく、重要文化財に指定されている実物の部材を組み上げて復原しているところです。

山田寺の東回廊は1982年に発掘され、当時は大きな話題となりました。この東回廊は11世紀前半におきた土砂崩れにより埋もれたと考えられています。幸いにも、地下水位が高く外気から遮断されていたため、木材の腐食が最小限に抑えられ、多くの部材が奇跡的に倒壊した当時の姿を保ったまま発掘されました。

しかし、東回廊の部材が当時そのままの姿とはいえ、木材の細胞壁を構成しているセルロースを失っているために強度が低く、乾燥すると収縮してひび割れなどを生じる可能性がありました。そこで、平城宮跡にある施設に運び保存処置を施しました。

復原展示されているものは、保存状態が良好であった三間分で、皆様に間近で造営当時の迫力ある姿を御覧頂くことができます。

山田寺は舒明13年（641）に造営が開始され、天武14年（685）に完成していますので、展示されている東回廊は、現存する世界最古の木造建築である法隆寺よりも半世紀あまり古い建築様式を示していることとなります。当時の最先端の建築を物語る山田寺東回廊をご覧いただき、願主である石川麻呂が生きた飛鳥時代に思いをはせてみてはいかがでしょうか。（飛鳥資料館 成田 聖）



第2展示室の復原山田寺回廊